

1. 11月全国行事

- | | |
|---------------|--------------|
| 1) 特定自主検査強調月間 | 11月1日～11月30日 |
| 2) ボイラーデー | 11月8日 |
| 3) 秋の全国火災予防運動 | 11月9日～11月15日 |

2. 安全・衛生・防災の心得: 職場の化学物質管理を見直そう

3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)

4. よその事故・ワイヤが切れて吊り荷の下敷き

5. 今月のヒヤリハット

2. 安全・衛生・防災の心得: 職場の化学物質管理を見直そう

我が国では現在、約6万種の化学薬品が取り扱われており、そのうち、有害性が判っているのは一万種に満たないと言われています。ILOによると、毎年世界中で200万人の労働者が化学物質等による中毒や業務上の疾病で命を落としていると報告しています。

我が国では、職場で幅広く取り扱われる化学物質のうち、労働者に健康障害を発生させるおそれのあるものについては労働安全衛生法により、①製造、輸入、譲渡、提供、使用等の禁止。②製造に際し、厚生労働大臣の許可が必要。③その他製造・取扱い上の管理が必要な物の3つに分けてそれぞれ規制されています。このほか、人体に対する有害性が確定していないものであっても、重度の健康障害を生ずるおそれのあるものについては、未然にこれを防止するための適切な対策の実施が可能となるよう、必要に応じて法令に基づき健康障害を防止するための指針等が示されています。

私たちの事業場で取り扱う化学物質を適正に取り扱うためには、作業マニュアルを作成し、保管、運搬、廃棄などについてその基準を策定するとともに、作業主任者の選任等安全衛生管理体制を確立するほか、適切な安全衛生教育を実施するなどして、みんなが自分の職場で取り扱う化学物質に関心を払い、正しい知識と正しい取扱い方法を身につけていく必要があります。

3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)

①愛知工場

運搬台車を改造し、容器が転倒しないようにした。



②関東技術センター宇都宮Gr

プレス機のスイッチは、使用時以外は安全カバーをつけていた。



4. よその事故・ワイヤが切れて吊り荷の下敷き

<災害のあらまし>

機械工場において、常駐の下請け事業所の作業員(男性32歳、経験5年)が天井クレーン(定格荷重2.8トン、床上操作式)を用いて、重量700kgの鋼材を運搬するためワイヤーロープを掛けて荷を約2m吊りあげた際、振れた吊り荷を止めようと、吊り荷の下方に近づいたとき、突然ワイヤーが切れて荷が落下し下敷きになって死亡しました。

<災害の主な原因>

- ①ワイヤーロープがキンクして損傷していたこと。
- ②玉掛けの方法が悪く、また、急に高さ2メートルまで吊り上げたため荷が傾いて振れたこと。
- ③傾いて振れた荷を止めようと吊り荷の下方に入ったこと。
- ④工場側(元方事業者)は、クレーンに関する一切の管理を下請け業者に任せっぱなしにしていたこと、など。

<同種災害の防止対策 例>

- ①損傷したワイヤーロープは使用しないよう、明確に区分して整頓する。
- ②吊り荷は安定した状態で吊り上げられるよう玉掛けし、吊り上げる際はいったん地切りを行って、吊り荷の安全な状態を確認する。
- ③吊り荷の下には入らないよう習慣づける。
- ④元方事業者は、クレーン等の設備や器具等の安全管理を厳重に行い、作業方法等についても指導・指示を行う、など。

5. 今月のヒヤリハット:各事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

「安全が危険に変身 慣れと油断が事故のもと」

事例	シャッターから外に出ようとしたら、トラックがバックしてきていた。
どこで	工場で。
あらまし	シャッターから外に出ようとしたらトラックがバックしてきているのきがつき少しビックリした。作業時間前から積込作業が始まっている認識が薄かった。作業時間以外でも顔を出して目視で確認する様に注意したい。
原因	シャッターの外の状況を確認しなかったこと。
教訓・対策	建屋から外にでるときは、作業時間以外であっても、外の状況を確認する。

事例	回転バスケットのネジが一箇所入っていなかった。
どこで	工場で。
あらまし	回転バスケットのネジが1箇所入っていなかった。脱脂槽に入る前に気付いたがヒヤリとした。
原因	回転バスケットの状態を、よく確認しなかったこと。
教訓・対策	回転バスケットの状態確認は、慎重に行う。

6. その他

<省エネについて>

必要な場所では点灯を行い、不必要な場所は消灯を行うなど、無理のない省エネ活動を行って下さい。

「出来ることから即実践 習慣付けよう省エネ職場」 H26年度環境保全最優秀作品